

令和7年度 多摩区地域教育会議 教育を語るつどい

多摩区の
教育を語る1Day

ONE

教育を語る1Day

令和8年2月28日(土)

川崎市多摩市民館 3階 視聴覚室

参加
無料

第1部 講演会・意見交換会

知ろう！語ろう！子どもの権利・学校のこと

9:00 開場 / 9:30 講演会 / 10:50 意見交換会

第2部 上映会&意見交換会

映画 小学校～それは小さな社会～

13:30 開場 / 13:45 上映会 / 15:30 意見交換会

詳細は2～4面をご覧ください

第1部、第2部どちらかでの申し込みも可能です

申し込み方法: 右記のQRコードか下記URLよりお申込みください

2月1日受付開始

<https://www.city.kawasaki.jp/tama/page/0000182610.html>



定員40名 定員に達し次第締め切ります

主催: 多摩区地域教育会議

会場: 多摩市民館(多摩区総合庁舎)

〒214-8570

川崎市多摩区登戸1775-1

TEL: 044-935-3333 / FAX: 044-935-3398

【小田急線】向ヶ丘遊園駅北口より

徒歩5分

【南武線】登戸駅より徒歩10分



地域教育会議は、多くの学校が荒れていた80年代に、学校だけでなく地域で話し合い子どもを育てていこうと立ち上がった市の委託事業です。

教育を語るつどいは、子育て中の方や地域の方が集まっていろいろな考えや思いを語り、聴き合うことで気付きや安心できること、活動のヒントや団体同士や地域住民同士のつながりが得られることを願っています。

知ろう！語ろう！

子どもの権利・学校のこと

講演会 意見交換会

わたしたちは大切な権利を持っています。権利について知ることが、子ども達を育む上でなぜ大切なのでしょう。そして学校ではどのように活かされているのでしょうか。保護者として、地域の大人として、大切な子ども達の育ちのために何ができるのか。一緒に考えてみませんか？



講師：田中真喜男氏

特定非営利活動法人教育活動総合サポートセンター理事長

川崎市立小学校の教員・校長として勤務する中、教育委員会の人権・共生教育担当として5年間「川崎市子どもの権利に関する条例」の普及に尽力。

現職では子ども・保護者・学校の支援、講演など幅広く活動。

趣味は映画・絵画鑑賞・野球観戦。

「川崎市子どもの権利に関する条例」聞いたことはあるけど私たちにどのように関係あるのかな？

今の学校の様子はどうなんだろう？

保護者として子どもや学校のこと気がなっているけどどこに相談したらいいのかな？

さあ、みんなで考えよう！語り合おう！

2023年4月に子ども施策を総合的に進めるための「こども基本法」を施行されたことに伴い、子どもの権利に対する関心が高まっています。

一方、川崎市ではこども基本法に先んじること20年以上前に「川崎市子どもの権利に関する条例」を策定。先進的な取り組みであるものの、まだまだ市民の理解には課題がありそうです。

～条例制定の背景～

川崎市子どもの権利に関する条例は、2000年（平成12年）12月21日、川崎市議会において全会一致で可決成立し、2001年（平成13年）4月1日から施行されています。

この条例は、日本で最初の子どもの権利に関する総合的な条例であり、また、本市にとっても、条例案づくりを市民・子ども参加の中で進めてきたという点で、おそらく前例のない、初めての取組だったと言えます。

条例案の具体的な策定作業は、1998年（平成10年）9月から200回を超える様々な会議や集会がもたれ、約2年近くをかけてまとめられた条例骨子案が、2000年（平成12年）6月に「検討連絡会議」から報告書の形で答申され、その後、約半年近くをかけ答申内容に沿って条文を整理し条例案としてまとめ直し、同年12月の議会に提案し成立したものです。

（川崎市・川崎市教育委員会「川崎市子どもの権利に関する条例 ―各条文の理解のために―」より引用）



ドイツ

『第24回 ニッポン・コネクション』
最優秀ドキュメンタリー賞受賞

ポーランド

『第21回 ミレニアム・ドックス・アゲインスト・
グラビティ映画祭』正式上映作品

アメリカ

『第17回 ジャパン・カット』
観客賞受賞

韓国

『第21回 EBS国際ドキュメンタリー映画祭』
審査員特別賞

教育大国フィンランドでは20館の拡大公開で大ヒット
—— 海外からの熱いオファー続々と！

いま、小学校を知ること、未来の日本を考えること

小学校

～それは小さな社会～

THE MAKING
OF A
JAPANESE



監督・編集：山崎エマ

（『モンキービジネス おさるのジョージ著者の大冒険』『甲子園：フィールド・オブ・ドリームス』）

プロデューサー：エリック・ニアリ

製作・制作：シネリック・クリエイティブ 国際共同製作：NHK

共同制作：Pystymetsä Point du Jour YLE France Télévisions 協力：世田谷区 世田谷区教育委員会

製作協力：純牛倶楽部 配給：ハビネットファントム・スタジオ 宣伝：ミラクルヴォイス 宣伝協力：芽 inc.

© AFF2 2023年 | 日本・アメリカ・フィンランド・フランス | カラー | 99分 | 5.1ch

© Cineric Creative / NHK / Pystymetsä / Point du Jour

私たちは、いつどうやって日本人になったのか？ ありふれた公立小学校がくれる、新たな気づき

観客の思考を大きくうねらせる! 続々と世界各国で大反響!! 「THE MAKING OF A JAPANESE」旋風が止まらない



「コミュニティづくりの教科書。
自分たちの教育を見直す場になった」

1館から20館の拡大公開で4ヶ月のロングラン大ヒット!

「アメリカでは子供たちは掃除をしない。
これは『自分たちのことを自分たちでやる』
ということを学ぶための最高の見本だ」



ニューヨークタイムズ紙に
本作と山崎監督のキャリアが紹介された



「日本人は小さい頃から周りと協力する意識が
自然と身についている。
だから地震がきても慌てず、
コロナ中もうまく対応できたんだろう」

「日本の子どもたちの責任感がすごい。
小さな子どもを信頼する先生たちもすごい」



「人々の表情、動作の姿勢が
すべて生き生きとしている。個性が生きている」

「この映画がエジプト全ての学校で
上映されることを願っている」



教育チャンネルEBSで放送され、50万人以上が視聴!

掃除・日直制度・学級会などの
日本式教育「TOKKATSU」の導入が
2万以上の公立小学校で進んでいる

「6歳児は世界のどこでも同じようだけれど、
12歳になる頃には、日本の子どもは“日本人”になっている」

主人公は学校そのもの。カメラは入学したての1年生と卒業を控えた6年生に焦点を絞り、彼らの学校生活を追う。春夏秋冬、そしてまた春へ。イギリス人の父と日本人の母を持つ山崎エマ監督は、日本の公立小学校〜インターナショナルの中高一貫校を卒業し、アメリカの大学へと進学。そこで、自分の強みは、日本で過ごした小学校時代に学んだ“規律と責任”に由来していることに気づく。公立小学校で150日、のべ4,000時間という前代未聞の長期取材を実施した本作からは、〈今、日本人に伝えたい、大事なこと〉が見えてくる。学校での教室の掃除や給食の配膳などを子どもたち自身が行う国は少なく、日本式教育「TOKKATSU」は、海外で注目を集めている。日本人である私たちが当たり前に行っていることは、海外から見ると驚きでいっぱい! 小学校を知ることは、未来の日本を考えることだと作品は投げかける。



監督・編集：山崎エマ（『モンキービジネス おさるのジョージ著者の大冒険』『甲子園：フィールド・オブ・ドリームス』）

shogakko-film.com

プロデューサー：エリック・ニアリ 撮影監督：加倉井和希 録音：岩間真 エグゼクティブ・プロデューサー：安田慎 杉江亮彦 岡寛瑞恵 コープロデューサー：ウーティ・ロウス リュック・マルタン＝グセ 金川雄策
音楽：バイビー・タカラ ミキサー：アンドリュウ・トレイシー 共同編集：井手麻里子 鳥屋みずき 特別撮影：ジョン・ドニカ カラーリスト：佐藤文郎 製作・制作：シネリック・クリエイティブ 国際共同製作：NHK
共同制作：Pystymetsä Point du Jour YLE France Télévisions 協力：世田谷区 世田谷区教育委員会 協力：純牛倶楽部 配給：ハビネットファントム・スタジオ 宣伝：ミラクルヴォイス 宣伝協力：芽Inc.
2023年 | 日本・アメリカ・フィンランド・フランス | カラー | 99分 | 5.1ch 〆 AFE2 © Cineric Creative / NHK / Pystymetsä / Point du Jour

2/28(土)
上映会&意見交換会

会場：川崎市多摩市民館3階視聴覚室
13：30開場／13：45開演／15：30意見交換会

参加費
無料